

地域課題の解決に向けた取組

林業のコスト削減に向けて～低コスト作業の普及～

網走中部森林管理署

はじめに

新たな「森林・林業基本計画」に基づき、森林の持つ多面的機能を発揮させつつ林業の成長産業化を実現していくためには、造林や生産事業の低コスト化は大きな課題のひとつとなっています。

全道的にもトドマツやカラマツなどの人工林資源の成熟が進む中で、オホーツク地域においても、低コスト化に向けた生産性の向上や施業の省力化は大きな課題のひとつとなっています。

このような中、林業生産性向上に向けた高性能林業機械の導入も進み、網走中部森林管理署管内の事業体においても、ハーベスタ、グラップル等の高性能林業機械を導入して、伐採、玉切り（伐採した木を規格の長さの丸太に切ること）作業を行う現場が増えています。

課題

しかし、管内の事業体は伐採した木を搬出するため

の木寄せ、集材の作業は、全木、全幹（長い木のまま）で行っており、従前同様にトラクタを使っているところが殆どで、フォワーダの導入は進んでいない状況です。

現行の機械利用を前提に低コスト化に向けた生産性向上を図るためには、ハーベスタ、グラップル等の高性能林業機械とトラクタを組み合わせた作業工程の現状を把握して、各機械の稼働状況等を踏まえた効率的な作業に取り組む必要がありますが、現在のところ、各事業体では、詳細な工程の把握までは行っていない状況です。

課題解決に向けて

そこで、後志森林管理署で取り組んでいる工程管理システム（以下、システムという）を活用することで、作業工程や人員配置等を効果的に改善して素材生産のコスト削減と省力化を推進できるのではないかと考え、平成二十八年度に置戸地区の事業体を対象に高性能

林業機械と列状間伐の低コスト化推進に向けた現地検討会及び生産性の向上を目的としたシステムの説明会を実施しました。



工程管理システム説明会



高性能機械現地検討会(置戸町)

平成29年度の取組

平成二十九年度は、さらに低コスト化に向けた取組を推進するため、実際にシステムを使っていたいただくことを計画しました。

それぞれの事業体において作業工程等の改善点を実際に確認し、低コスト化へ向けて意識を高めてもらうため、平成29年8月に置戸町内の事業体を訪問し、目的と効果について説明しシステムの使用を依頼したところ、三社の協力を得ることができました。



置戸町事業体へ工程管理システム試用への個別説明

今後は、今回の三社の意見を踏まえ、管内の他の事業体へのシステムの普及を図り、一層の低コスト化に向けた取組が図れるよう、努力して参りたいと考えています。